



職員プロジェクトチームの 検討結果について（概要）

10年後の
羽村市を担う
若手職員
による！

市では、若手職員による職員プロジェクトチームを立ち上げ、8月から10月にかけて6回にわたり、10年後の羽村市のまちの姿や、具現化するための取組みなどについて、マーケティング手法などを活用しながら検討しました。

プロジェクトチームに参加したのは、入庁2年目から8年目の23人の職員です。

5つの班に分かれ、羽村市の強み・弱み・ピンチ・チャンスをつまえたSWOT分析、ターゲットに基づいた「まちのコンセプト（未来像）やビジョン」「市のミッション」の検討、未来像を具現化するための具体的な取組みなどを、それぞれのテーマで検討し、提案しました。提案内容の概要は、次のとおりです。

※記載している提案内容や事業等は案であり、第六次羽村市長期総合計画の検討において参考としていくものとなります。

提案1 「子育て世代のUターンの促進（定住人口の増加）」

羽村市から引っ越した方などが子育てのために戻ってきたくする事業を展開し、羽村市への定住人口の増加を目指し、子育てしやすいまちのPRを行い、子育て世代がUターンしたくなるまちを実現する。

まちのコンセプト：子育てしに戻ってきたくするまち
まちのビジョン：伸び伸びと子育てができる頼りあう事ができるまち
市のミッション：羽村市とかかわってくれた人を大切にする

- まちのコンセプトを実現するための取組み（方向性・事業案）
- ①転出時から始まる断続的なPR →PR事業
 - ・転出手続きの際チラシを手渡し など
 - ②実体験による定住イメージの醸成 →定住体験事業（お試し宿泊事業）
 - ・市内各エリアにモデルハウスを作り、お試しで宿泊
 - ・市内ツアーや羽村市民との交流
 - ※モデルハウスは、空き家を民間委託でリノベーション
 - ③理想のマイホーム生活を後押し →再定住優遇事業（居住家屋助成事業）
 - ・過去10年以内に市に住民票を置いていた人が一定の宅地面積を超える戸建て住宅を購入した場合に、引越祝金（100万円）を支給

提案2 「稼げる行政」

空き家等のストックを活かした新たな企業誘致を展開して、市内企業の増加・成長や地域の雇用等につなげることで、市の安定的な財源確保の基盤（財源の柱）となり、稼げる行政が実現する。

そして、経済循環を図ることは、羽村で生まれ・育ち・働くという次世代への“Re:サイクル（循環）”の実現にもつながり、安定的な財源確保と、充実した市民の暮らし（市民サービスの向上）を目指すことができる。

まちのコンセプト：羽村で Re:スタート・アップ！
～これから成長していく新興企業の誘致～
まちのビジョン：はむらで働き、成長し、そして財源の「柱」となる
市のミッション：「地方共成と経済循環」

- まちのコンセプトを実現するための取組み（方向性・事業案）
- 空き家を活用した新興企業誘致事業の実施
 - ・事務所移転を検討している企業に対し、市内にある空き家をオフィスとして提供
 - ・空き家は、所有者と交渉して「羽村市空き家情報バンク」へ登録し、立地条件、外観や内装の写真、家賃または売却金額などを市公式サイトに掲載
 - ・「空き家改修費用」「インターネット通信費用」「人材育成費用」などの経費の一部について、企業の規模（資本金等）に合わせた金額を補助

提案3 「デジタル時代における「変化への対応」」

10年後には「当たり前」になっているデジタル時代。デジタル技術の活用で、いつでもどこでもつながれる～スマートシティHAMURA～を実現し、市民生活をサポート、利便性の向上を目指す。

羽村市は、コンパクトシティであるからこそ市民一人一人の声を反映し、デジタル時代における社会の変化にも柔軟に対応できる。

まちのコンセプト：いつでもどこでもつながれる！
～スマートシティHAMURA～
まちのビジョン：市民と共に創り上げていくまちはむら
市のミッション：「共存と共創」

- まちのコンセプトを実現するための取組み（方向性・事業案）
- 電子申請や電子決済（決裁）システムの導入
 - ・時間や場所に縛られずに、申請等ができる。
 - ・AIチャットボットの導入で、必要な手続きの方法等が、すぐに分かる。
 - ・公共施設にも端末を設置することで、デジタル弱者も利用しやすくなる。
 - ※システム導入後は、市民等意見を取り入れて、より使いやすいシステムに改善

提案4 「働く」

外国人労働者の増加を見据え、外国人労働者向けの支援だけでなく、市内企業に向けた支援策を展開し、対話や経験の中でお互いの本質を知り、理解することで、外国人が安心して働ける社会を目指す。そして、そのような取組みを通じ、外国人だけでなく、年齢や性別、性的思考に関わらず、さまざまな多文化が“共働”するまちとなり、みんなが笑顔で、助け合いながら暮らしていけるまちの実現につなげる。

まちのコンセプト：多文化共生から多文化「共働」へ
まちのビジョン：誰もが笑顔で手を取りあえるまち はむら
市のミッション：「理解と協力」

- まちのコンセプトを実現するための取組み（方向性・事業案）
- 外国人の就職・就労支援
 - ・市内企業に向けた、外国人労働者の受入れについての説明会を実施
 - ・就職活動のマナーや一般常識などを学ぶ就職講座の実施
 - ・外国人労働者と企業のマッチング説明会を実施
 - ・就職後に相談できる場を設定

提案5 「アフターコロナにおける防災の在り方」

行政と市民が連携しながら、高齢者に対する新しい避難体制を整備するとともに、避難所の運営にシステムを導入して見える化し、自助・共助・公助が今以上に機能する体制を整えることで、市民が誰一人として避難しそびれることのないまちを実現する。 ※高齢者に対する体制整備後、障害者や子育て世帯などの要配慮者の避難体制を整備

まちのコンセプト：行政と企業の連携で災害時に高齢者を取り残さないまち
まちのビジョン：市民の命と生活を守るまち
市のミッション：自助・共助・公助の強化

- まちのコンセプトを実現するための取組み（方向性・事業案）
- ①民間事業者等との災害時「高齢者お助けカンパニー」制度に関する協定
 - ・市から市内事業者の従業員へ災害時に協力を要請。
 - ・災害時に情報の収集、救助活動、避難所間輸送等の活動を行う。
 - ②避難所運営システム「羽村市スマート避難システム」の構築
 - ・災害時の新型コロナウイルス等の感染症対策のため、避難所状況の見える化。
 - ・運営側も市民も利用（閲覧）可能なシステムからさまざまな情報を管理・提供。